

## 今日のキーワード あの時『積立投資』を始めていたら・・・米国編

米国を代表する株価指数のS&P500種指数は、今年初から概ね好調な展開が続いており、最高値の更新が続いています。しかし、過去20年間を振り返ると、米国株式市場はITバブルの崩壊、リーマン・ショックという2回の大きな調整局面を経験しました。また、この間、急激な円高・米ドル安となる局面もありました。激動の米国株式に、1997年から約20年間コツコツと『積立投資』を行っていたら、資産はどうか成長したのでしょうか？

### ポイント1 リーマン・ショック後、S&P500種指数は堅調に推移 米国株式市場は過去20年間で2度の試練を経験

- 米国株式市場は、ここ数年は堅調に推移しています。代表的な株価指数のS&P500種指数は、今年初から高値更新が続いています。しかし、過去20年間を振り返ると、2000年後半から2002年にかけてはITバブルの崩壊、2008年9月にはリーマン・ショックと2度の大きな調整局面がありました。しかし同指数は1997年1月末の786.16ポイントから、2017年10月の2,575.26ポイントまで上昇しました。また、米ドル円レートは147円台から75円台まで大きく上下しました。

### ポイント2 1997年からの投資収益率を比較 『積立投資』と一括投資で比較すると・・・

- 大きな変動を繰り返してきた米国株式市場ですが、約20年前から『積立投資』を行っていたら、資産はどのように成長したのでしょうか？1997年から米国株式の投資信託に一括投資した場合と、『積立投資』をしていた場合の投資収益率を比較してみました。
- 投資信託はS&P500種指数に連動し、手数料や税金等は無いと仮定します。投資期間は1997年1月から2017年10月までとし、毎月1万円ずつ『積立投資』をします。同期間の投資金額はともに250万円となります。

【米国株式と米ドル円レート】



(注) データは1997年1月末～2017年10月末。  
(出所) Bloomberg, L.P.のデータを基に  
三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 『積立投資』はまとまった資金が無くても資産形成に貢献できる

- 結果は概算で、『積立投資』は538万円となり、約2倍に資産が成長しました。米国株式市場では、ITバブルの崩壊やリーマン・ショックという2度の大きな調整局面がありましたが、『積立投資』ではこうしたリスクに対しても、長期でコツコツと投資することで、結果的に投資対象資産の価格の振れをある程度抑えながら、資産形成に貢献できると考えられます。なお、一括投資は767万円と、『積立投資』を上回る投資成果となりました。これは米国株式市場が2度の調整局面を経ながらも、20年間で株価がそれだけ大きく上昇したためです。

ここも  
チェック! 2017年11月14日 規模別で異なる値動きとなった米国株式市場  
2017年11月10日 あの時『積立投資』を始めていたら・・・1997年から編

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。